

## 砥部分校同窓会総会に寄せて

本日は5年ぶりに、砥部分校同窓会総会が開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。松山南高同窓会関西支部会出席のため、出席がかないませんことを、お許してください。

昨年は、砥部分校を南高より切り離し、伊予高校へと統合する案が発表され、「砥部分校存続の会」のみなさんが、大活躍されました。

このとき、多摩美術大学名誉教授のわたなべひろこ先生が、砥部分校の移転問題に関して、「賛成するとか反対するとかではなく、芸術と科学の関係性、砥部分校の存在意義、砥部分校と松山南高本校との関わり方を見直す、絶好のチャンスと捉えなさい」と、言われたことが、今も心に残っています。

砥部分校存続の最後のワンピースを埋めてくださったのは、佐川秀紀砥部町長さんです。最終意見聴取会に町長さんと副町長さんが出席してくださったのは、砥部分校だけと聞いています。本当にありがとうございました。

松下県議は、「砥部町の発展のためにも、砥部分校を残して欲しい」と電話した時、「砥部分校の子どもたちの幸せを第一に考えるべきであり、砥部の町おこしは、二の次である」と力強く言ってくださいました。

今後、安心して、存続以上の飛躍を目指して、「砥部分応援隊」の活動を継続してください。

先日、58歳の砥部分校出身の方が当院で亡くなりました。告別式にも参加させていただきましたが、40人のクラスメートのうち8人が参加して下さり、故人に向かって、一言ずつ語りかける姿に感動しました。心温まる会に、涙が出ました。また、日本全国でご活躍のクラスメート方からの弔電もあり、同窓生の素晴らしい結束力を見せていただきました。

砥部分校は砥部分校のまま、存続していただきたい。また南高本校との、交流も、今後本格的に開始して、わたなべひろこ先生の言われた通りに、絶好のチャンスとしようではありませんか。

本日の、松山南高砥部分校の同窓会総会が、夢のある未来に向かって、盛会となりますことを、お祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和5年8月27日

松山南高等学校同窓会長 中城 敏

